



安全で快適なまちづくりをめざして

寝屋川流域 総合治水対策

地盤が低く、水が流れにくい寝屋川流域。 まちを水害から守るため、 総合治水対策を行っています。



寝屋川流域はその大部分が低平地であり、流域の約3/4は雨水が自然に河川に流れ込まない「内水域」であることから、下水道により雨水を集めポンプで強制的に河川へ排水しています。

こうして河川に集められた雨水の出口は、寝屋川の京橋口(旧淀川合流点)ただ一ヶ所しかありません。こうした厳しい地形条件の中、流域住民の暮らしを洪水から守るため、国、大阪府、流域関係11市が協力して「寝屋川流域総合治水対策協議会」を設立し、21世紀の安全で快適なまちづくりをめざして、平成2年4月に「寝屋川流域整備計画」を策定しました。この計画に基づき、新たな治水施設の建設や流域対策など、河川と下水道と流域が一体となった総合的な治水対策を進めてきました。その後、平成9年度の河川法改正を受け、平成14年7月に策定(平成27年3月に変更)した『淀川水系寝屋川ブロック河川整備計画』に基づき、引き続き治水対策はもとより、環境対策にも取り組んでいます。

平成17年度には、特定都市河川の指定を受け、流域対策のより一層の促進に努めています。

平成26年8月に「寝屋川流域水害対策計画(変更)」を策定しました。



現在でも浸水被害は起こっています。

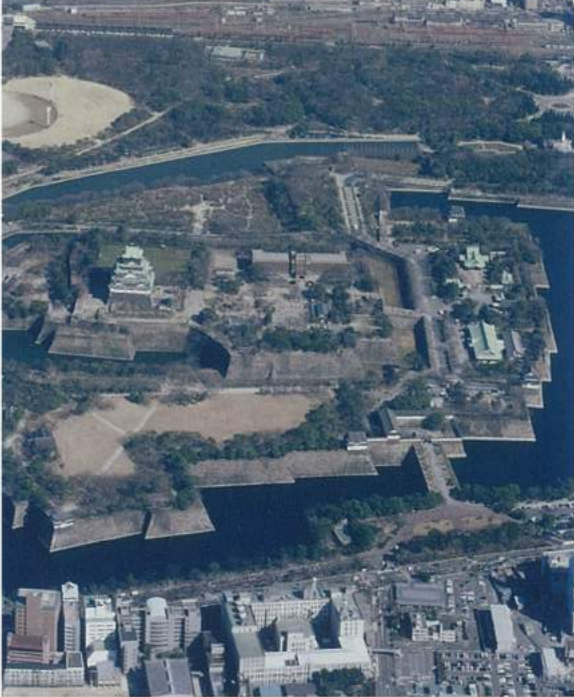
寝屋川流域は、急激な都市化の進展により保水・遊水機能が低下しているため、雨水の流出量が増大し、流出時間は短くなっています。このため、河川へ排水するポンプの能力以上の雨が降った場合に、下水道管や水路から水があふれ出る「内水浸水」が現在でも発生するほど厳しい治水環境にあります。



平成24年8月(寝屋川市)

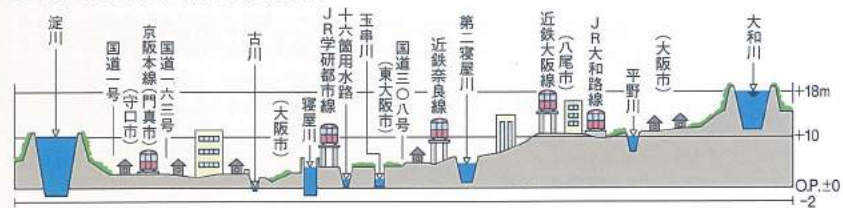
寝屋川流域で起こった主な浸水被害

年月日	気象要因	流域最大降雨量		浸水被害		
		時間最大 (mm)	総雨量 (mm)	床上 (戸)	床下 (戸)	計 (戸)
昭和47年 7月12日~13日	梅雨前線	20.0	237.5	6,138	37,273	43,411
昭和47年 9月15日~16日	台風20号	47.5	115.0	8,902	52,505	61,407
昭和54年 6月27日~7月2日	梅雨前線	25.0	268.5	1,044	12,043	13,087
昭和54年 9月30日~10月1日	台風16号	66.0	96.0	4,045	23,691	27,736
昭和57年 8月2日~3日	台風10号 及び低気圧	39.5	150.5	6,778	43,262	50,040
平成元年 9月2日~3日	秋雨前線	23.0	166.0	26	1,927	1,953
平成元年 9月14日	秋雨前線	49.0	75.5	68	3,600	3,668
平成元年 9月19日~20日	台風22号	41.0	104.0	3	1,694	1,697
平成7年 7月2日~6日	梅雨前線	32.0	290.0	14	2,026	2,040
平成9年 7月9日	梅雨前線	35.0	74.0	9	163	172
平成9年 7月13日	梅雨前線	42.0	114.0	61	3,767	3,828
平成9年 8月5日	低気圧	61.0	75.0	67	3,135	3,202
平成9年 8月7日	前線	80.0	116.0	359	8,854	9,213
平成11年 6月26日~27日	梅雨前線	50.0	94.0	3	398	401
平成11年 6月29日~30日	梅雨前線	42.0	130.0	2	195	197
平成11年 8月10日~11日	熱帯低気圧	56.0	244.0	364	3,116	3,480
平成11年 9月17日	局地的豪雨	88.0	106.0	85	3,872	3,957
平成15年 5月8日	前線	47.0	80.0	15	611	626
平成16年 5月13日	前線	41.0	89.0	22	310	332
平成16年 10月20日	台風23号	42.0	134.0	15	490	505
平成20年 8月6日	低気圧	63.5	73.5	183	2,357	2,540
平成23年 8月27日	局地的豪雨	76.0	89.0	93	1,499	1,592
平成24年 8月14日	局地的豪雨	111.0	159.0	2,554	17,080	19,634
平成25年 8月25日	局地的豪雨	59.0	119.0	17	887	904

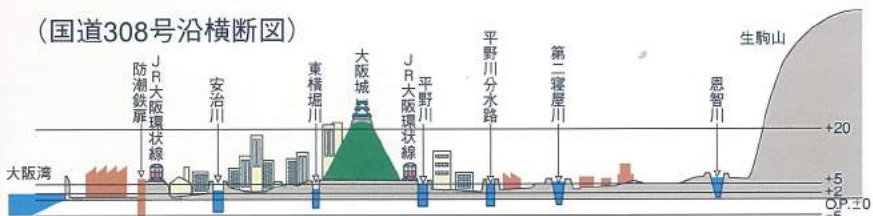


地盤高断面図

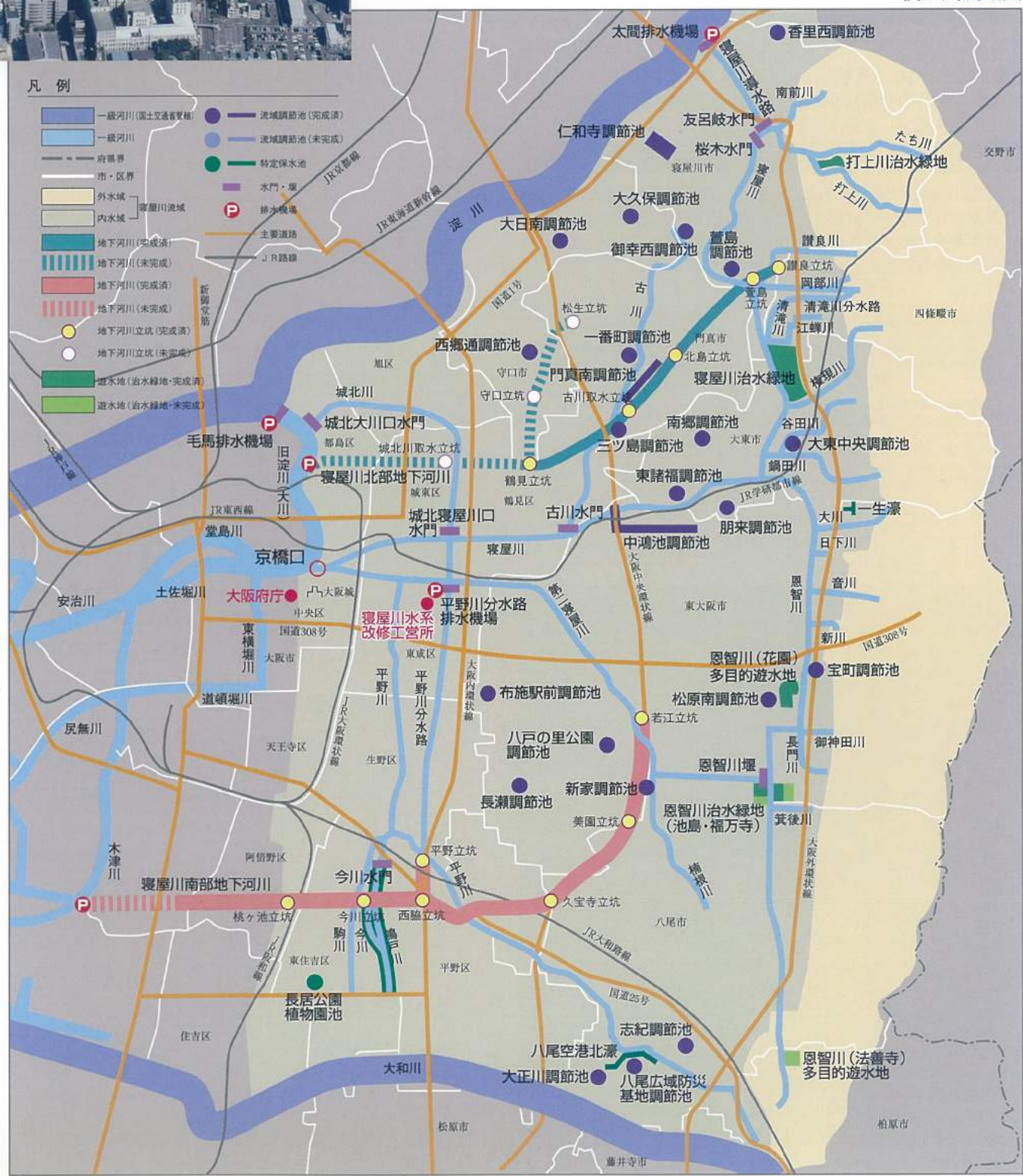
(大阪中央環状線沿縦断面図)



(国道308号沿横断面図)



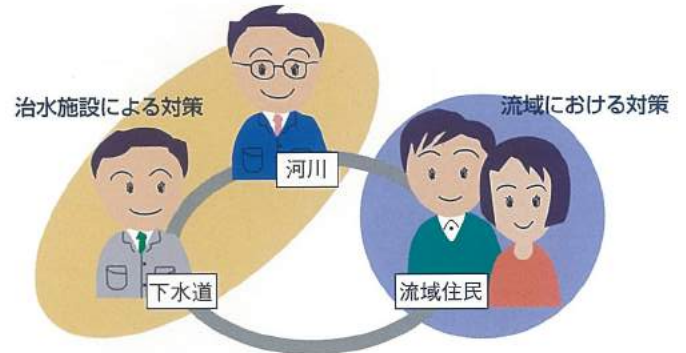
寝屋川流域図



治水計画の概要

安全で快適なまちをつくるためには、
総合的な治水対策を進めることが必要です。

水害に対して安全で快適なまちづくりを行うため、河川を改修するだけでなく、治水緑地や流域調節池などの貯留施設、地下河川等の放流施設などの整備を推進しています。また、雨水が流域から一挙に下水道や河川に流出することを防ぐための流域対策も重要です。このように、総合的な治水対策とは、河川や下水道の整備を進めるとともに、流域における保水・遊水機能を人工的に取り戻そうという新しい考え方に基づく治水対策です。



寝屋川流域総合治水対策の考え方

寝屋川流域の治水計画は、基準点（京橋口地点）における流域基本高水のピーク流量を $2,700\text{m}^3/\text{s}$ とし、河川と下水道によって基本高水のピーク流量 $2,400\text{m}^3/\text{s}$ までを処理し、残りの $300\text{m}^3/\text{s}$ を流域対応施設によって処理することとしています。

流量分担計画

【流域基本高水のピーク流量
 $2,700\text{m}^3/\text{s}$ 】（京橋口地点）

治水施設による対策
【基本高水のピーク流量
 $2,400\text{m}^3/\text{s}$ 】

流域における対策
【 $300\text{m}^3/\text{s}$ （ $400\text{万}\text{m}^3$ ）】

ハード面からの対策

- 河道改修（河川） $850\text{m}^3/\text{s}$
- 放流施設 $890\text{m}^3/\text{s}$
 - 分水路（河川 $255\text{m}^3/\text{s}$ 、下水 $135\text{m}^3/\text{s}$ ）
 - 地下河川（河川 $430\text{m}^3/\text{s}$ 、下水 $75\text{m}^3/\text{s}$ ）
- 貯留施設 $660\text{m}^3/\text{s}$
 - 遊水地（河川） $410\text{m}^3/\text{s}$
 - 調節池（河川・下水道） $250\text{m}^3/\text{s}$
- 流域対応施設 $300\text{m}^3/\text{s}$ （ $400\text{万}\text{m}^3$ ）

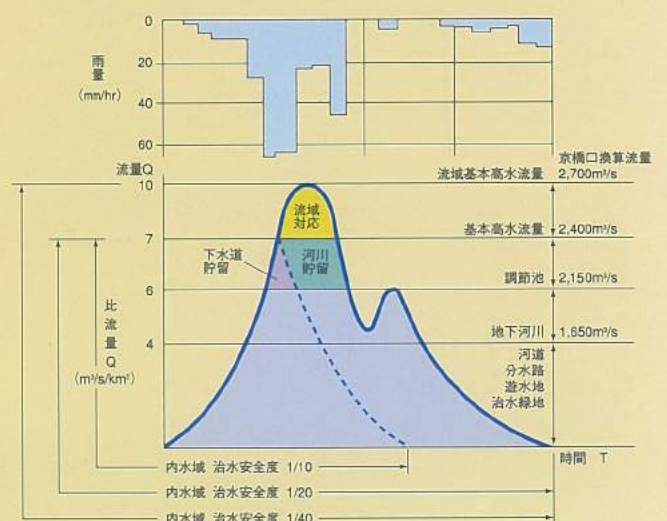
ソフト面からの対策

- 保水・遊水機能の保全対策
 - 市街化調整区域の保持
 - 森林・緑地の保全
 - 小規模開発対策
- 水害に強い街づくり
 - 水防災に対する市民意識の向上
 - 警報システム・避難対策の充実

計画諸元

流域面積	267.6 km^2 内水域 205.7 km^2 外水域 61.9 km^2
計画対象降雨	戦後最大実績降雨（昭和32年 八尾実績） 62.9 mm/hr 311.2 $\text{mm}/24\text{hr}$
流出係数	外水域 0.8 内水域 0.4~0.8
流域基本高水のピーク流量	$2,700\text{m}^3/\text{s}$ （京橋口地点）
基本高水のピーク流量	$2,400\text{m}^3/\text{s}$ （京橋口地点）
計画高水流量	$850\text{m}^3/\text{s}$ （京橋口地点）

計画対象降雨及び施設分担



治水施設による対策

河道改修に加えて、地下河川や流域調節池など新たな治水施設の整備に取り組んでいます。



河道改修

洪水を安全確実に流下させるため、河道の拡幅、堤防の嵩上げ、河床の掘り下げ、橋梁の改築などを行っています。特に河川の拡幅は新たな用地を必要とするため、寝屋川流域のように密集した市街地では、都市再開発事業などの都市計画事業と共同で実施することもあります。

住道駅前改修事業

大東市住道地区では、駅前再開発事業や鉄道の立体交差事業と共同で、河道改修を実施しました。(昭和56年概成)

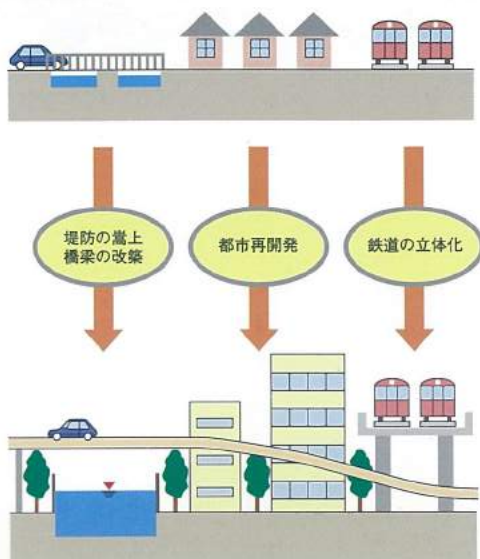
改修前 (昭和46年)



改修後 (平成12年)



改修事業模式図



放流施設

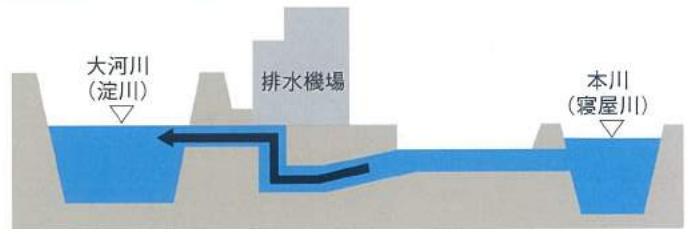


■分水路

分水路は、本川(寝屋川)の洪水の負担を軽減するために、洪水を分流し流域外の大河川(淀川)へ放流する新しい河川です。

寝屋川流域では、平成7年に完成した寝屋川導水路と現在工事中の城北川の2本の分水路があります。それぞれ太間排水機場と毛馬排水機場から、洪水を淀川へ放流します。

分水路イメージ図



分水路	分水先
城北川	120m ³ /s 旧淀川(大川)
寝屋川導水路	135m ³ /s 淀川



太間排水機場

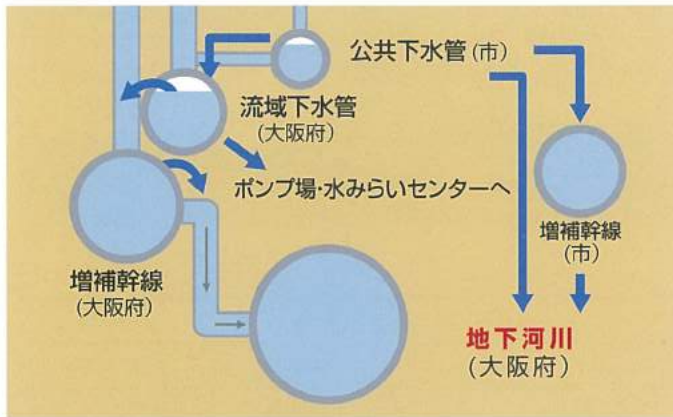
放流施設

■地下河川

市街化の進展した地域では、河川の拡幅や新たな河川の開削は困難です。そこで、道路等の公共施設の地下空間を有効に利用し、新たな放流施設である地下河川を建設します。街に降った雨は、まず公共下水道(市)で流域下水道(大阪府)に集められ、流域下水道の排水能力を超える雨水については増補幹線(大阪府)を経て、最終的に地下河川へ放流されます。これら一連の事業によって、寝屋川流域全体の治水安全度を向上させます。

現在、大阪府では、寝屋川北部と寝屋川南部の2本の地下河川の工事を進めています。完成した箇所は貯留施設として使用しています。

地下河川イメージ図



※一部、公共下水道(市)、増補幹線(市)から直接地下河川(大阪府)へ放流されるものがあります。

大東門真増補幹線



寝屋川北部地下河川

施設名	延長	放流量	放流先
寝屋川北部地下河川	約14km	250m ³ /s	旧淀川(大川)
寝屋川南部地下河川	約13km	180m ³ /s	木津川

貯留施設

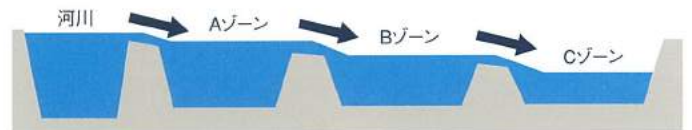
■遊水地

遊水地(治水緑地)は、洪水を計画的に一時貯留することにより、下流河川の負担を軽減するための施設です。また、平常時は都市の貴重なオープンスペースとして、公園や防災避難地等として利用されます。寝屋川流域では、完成施設を含め5ヶ所で事業を進めています。

遊水地イメージ図

●遊水地(治水緑地)のしくみ

寝屋川治水緑地の場合、まず「Aゾーン」に貯留し、さらに必要な場合は「Bゾーン」「Cゾーン」に貯留。3つのゾーンで合計146万m³を貯留することができます。



施設名	総面積(ha)	調節量(m ³ /s)	貯留量(万m ³)	完成(年)	
寝屋川	50.3	130	146	H3	
恩智川	池島・福万寺	40.2	160	165(89)	(H13)
	花園	14.0	50	32	H13
	法善寺	11.4	30	16	—
打上川	13.3	35	27	H8	

()一期計画



平成11年8月 寝屋川治水緑地 貯留状況



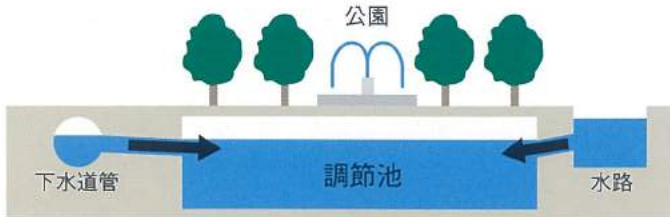
流域における対策

流域の保水・遊水機能を人工的に取り戻します。

■流域調節池

流域調節池は、水路や下水道が流しきれない雨水を一時貯留することにより、周辺地域の浸水被害を軽減するための施設で、主に公園や駐車場等の地下空間を活用して建設しています。現在、香里西など24ヶ所が完成しており、180万 m^3 の貯留量確保を目標に事業を進めています。

流域調節池イメージ図



調節池名	設置市	貯留量(m ³)	面積(m ²)	上面形態	完成(年)
香里西	寝屋川市	8,000	2,000	公園	H 2
大正川	八尾市	14,000	2,330	保育所	H 3
志紀	八尾市	10,000	2,100	広場	H 6
布施駅前	東大阪市	12,000	3,000	地下駐車場	H 7
三ツ島	門真市	24,000	4,200	テニスコート	H 7
南郷	大東市	10,000	3,000	公園	H 9
長瀬	東大阪市	23,000	4,600	広場	H 9
御幸西	寝屋川市	20,000	2,800	広場	H 1 2
中鴻池	東大阪市	20,100	6,200	水路	H 1 3
一番町	門真市	15,000	1,900	運転免許試験場	H 1 3
萱島	寝屋川市	26,000	3,000	保育所ほか	H 1 5
八尾広域防災基地	八尾市	32,000	32,600	広場	H 1 5
大久保	守口市	16,000	2,000	公園	H 1 7
東諸福	大東市	26,000	4,600	公園	H 1 7
八戸の里公園	東大阪市	36,700	3,600	公園	H 1 8
宝町	東大阪市	22,000	4,560	広場	H 1 9
松原南	東大阪市	33,000	4,400	ラグビー場	H 2 1
大東中央	大東市	56,900	4,970	公園	H 2 1
大日南	守口市	20,000	1,080	公園	H 2 2
仁和寺	寝屋川市	16,000	2,130	道路	H 2 2
朋来	大東市	47,000	4,490	公園	H 2 2
門真南	門真市	35,000	8,930	道路	H 2 2
新家	八尾市	50,000	2,010	公園	H 2 2
西郷通	守口市	40,000	4,000	学校ほか	H 2 6

※平成26年度末時点での貯留量612,700 m^3 。

※香里西は、平成2年に完成した全国初の流域調節池です。

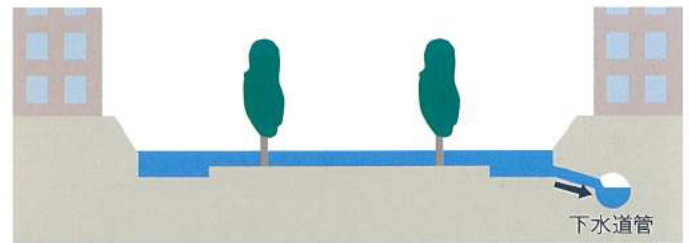
西郷通調節池



流域対策は、公園、学校、団地等の公共施設はもとより、民間の開発に際しても雨水流出抑制施設(貯留・浸透施設等)を設置することにより、従来、水田やため池等が果たしていた保水・遊水機能を、人工的に都市の中に取り戻すことを目的としています。

さらに、土地利用や森林・緑地の保全、緊急時の水防・避難など、ソフト面からの対策もあわせて行います。

雨水流出抑制施設イメージ図



平常時



貯留時

下記のグラフのように同程度の雨(平成9年と平成23年)と比較すると浸水戸数が減少し、治水施設の効果が表れていることが分かります。



このように一定の効果は出ておりますが、大雨に負けないまちづくりのために治水施設の整備をこれからも進めていきます。治水施設に頼るだけでなく、自分たちで出来る事もあります。(裏面参照)

寝屋川の総合治水を
広くPRしています

毎年5月・11月に治水施設見学会を
開催しています



小学校への出前講座

松原南調節池

なわて水みらいセンター

より良い環境づくりも行っています。



恩智川桜つつみ
桜を植えた堤防は、地域住民の憩いの場になっています。



護岸垂直緑化(恩智川住道新橋付近)
堤防を植物で覆うことによって、より良い景観づくりも行っています。

調べてみましょう。

★『洪水リスク』を知り、普段からの備えを強化しましょう!!

①ご自宅などの『洪水リスク』の確認をしてください。
大阪府では、大雨が降った時の河川の『洪水リスク』をインターネットや
窓口で公表していますので、ご自宅などのリスクを確認してください。

洪水リスクを検索!

大阪府 洪水リスク表示図

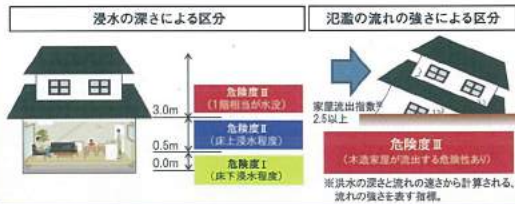
検索

(大阪府の土木・治水事務所や市町村の窓口でも冊子でご確認いただけます。)

②『危険度』はどうでしたか?

洪水リスクの分類

洪水のリスクは、想定される浸水の深さと流れの強さから、3段階の
『危険度』で表しています。



ほしいだけなら、ぼうさいほう
携帯電話用の防災情報を
かつよう
どんどん活用しましょう。

ぼうさいほう
防災情報メール

ほしいだけなら、ぼうさいほう
携帯電話用の防災情報を
かつよう
どんどん活用しましょう。
避難勧告などの防災情報をメ
ールで携帯電話にお知らせし
ます。
tourku@osaka-bousai.net



かわ ぼうさいほう
川の防災情報

おまのこ、おまのこ、おまのこ
両側の動きや全国の川の水位など
に関する、おまのこ、おまのこ
の情報を携帯電話で見ることが
できます。

http://river.go.jp/

おまのこ、おまのこ、おまのこ
大阪府河川情報

おまのこ、おまのこ、おまのこ
身近な河川の水位や雨量の情報を
おまのこ、おまのこ
携帯電話で見ることができます。
http://www.osaka-kasen-
portal.net/suibou/mobile/



自分たちでできることは?

★日頃の心がけで、浸水被害を
防ぐ事ができます

でんがせいじん きらぶひん たが お
・電化製品や貴重品などは高いところへ置く。

おろあめとき ふろ みず なが
・大雨の時はお風呂の水を流さないようにする。

はいすいこう そごう とのぞ
・排水溝・側溝のごみを取り除く。

うすい た うすい せっち
・雨水を貯める。(雨水タンクの設置)



公式ツイッター(アカウント:@neyakyogikaiPR)で最新の情報を発信しています!
(https://twitter.com/neyakyogikaiPR)

寝屋川流域協議会 事務局(大阪府都市整備部 河川室河川整備課) 平成28年 3月発行
〒540-0084 大阪府中央区大手町3-2-12/TEL.06-6943-9024(直通)
http://www.pref.osaka.jp/kasenseibi/seibi/neyakyogikai_00.html

このパンフレットは3500部作成し、一部あたり32円です。